

9/17 (木) **ヴェルフェたかはら那須報告会**

市内のサッカーチームヴェルフェたかはら那須の皆さんが市長を表敬訪問しました。トップチームの皆さんは、仙台で行われた全国予選を勝ち抜き、第51回全国社会人サッカー選手権大会出場を果たしました。U-12の皆さんは、関東少年サッカー大会栃木県大会で優勝し、関東大会に出場しました。

市長からは「サッカーのまち矢板の代表として頑張ってもらいたい」との話があり、U-12キャプテンの土屋巧さんは「将来は海外でプレーしたい」との思いを話してくれました。



9/20 (日) **新名物シュウカイドウ**

寺山観音寺で、秋口にかけピンク色の花を咲かせるシュウカイドウの開花を祝う祭りが開催されました。この祭りは、少しずつ増やしてきた花で心を癒していただき、これをきっかけとして、多くの方に歴史と文化に触れていただくことを目的として開催されているものです。この日は、地元の方々による模擬店や民謡、三味線の演奏が披露され、多くの方が境内を訪れました。

副住職の松平宣秀さんは、「秋口の矢板市の新しい名物になってくれれば」と話してくれました。



9/26 (土) **蔵を活用したまちづくり**

矢板武記念館で、「蔵 DE Night!」が開催されました。このイベントは、矢板武塾の卒塾生を中心とした「蔵*武Project」の皆さんにより、矢板武記念館にある二つの蔵を、人が集まり文化が交わる場所へと再生し、矢板市に新たな魅力ある場所を作ろうという目的で開催されているものです。

当日は、敷地内に多くのキャンドルが並べられ、蔵の中では、演奏会や紙芝居、民話の語りなどが行われました。キャンドルの温かい光に包まれながら、多くの方が幻想的な夜を楽しんでいました。



10/1 (木) **シルバーパワー全開**

運動公園陸上競技場で、シニアクラブによるシルバースポーツ大会が開催されました。この大会は、健康づくりと地域の仲間との親睦を図ることを目的として開催されており、今年で42回目を迎えました。

輪投げやパン食い競争などおなじみのものから、福引き競争、お箸をつかった迷い箸など多くの種目が行われました。また当日は、矢板高等学校の生徒が福祉ボランティア活動の一環としてお手伝いをするなど、多くの方が、秋晴れの下楽しそうに活動していました。



表彰受賞おめでとうございます

生涯スポーツ功労者文部科学大臣表彰
富川 黎司



昭和37年から41年間の長きにわたり、市体育指導委員として、また、平成10年からは市体育協会事務局長、その後副会長、会長を歴任し、平成25・26年度は塩谷地区体育協会会長として尽力し、市内外のスポーツの普及・発展に努めてきた。

栃木県教育功労者表彰
瀧田 征雄



昭和47年から9年間、市体育指導委員として、平成8年から4年間、市スポーツ振興審議会委員として、市の社会体育推進に尽力した。また、平成16年からは、市体育協会副会長、塩谷地区体育協会副会長を歴任し、市内外のスポーツ普及・発展に努めてきた。

市民力顕彰受賞おめでとうございます

矢板市の誇りとなる業績をあげ、市民に明るい夢と希望を与えた個人や団体に対して贈られる市民力顕彰制度。この度、顕彰を受けた2組の皆さんをご紹介します。



募集 市民力顕彰

皆さんの周りでも市民力を発揮し、各方面で活躍されている方がいましたら、ぜひご推薦ください。

対象となる方／
・社会活動や学術・文化・スポーツなどで市の誇りとなるような功績を上げ、市民に夢や希望を与えた方
・長年にわたり、人々の模範となるような善行を行っている方 など

推薦方法／
直接お越しになるか、電話でお問い合わせください。所定の用紙をお渡します。

問い合わせ／秘書広報課 ☎(43)3764

新風たかはら



平成18年度から、ボランティアによりツツジの生育の妨げとなっている下草刈りや笹刈り、支障雑木の伐採を行い、ツツジの群生の再生に努めている。また、ツツジの群生の中に遊歩道を整備した。

兵庫畑棚田を守る会



平成15年度から、農村地域の活性化および、都市住民との交流を目的に棚田オーナー制度を実施し、矢板市の知名度向上、地域活性化などに多大な貢献をした。

10/3 (土) 棚田で秋の収穫祭

第二農場兵庫畑の棚田でオーナーの皆さんによる収穫祭が行われました。この日は、県内のみならず、首都圏などから約50人のオーナーが参加して稲刈りを行いました。季節ごとに4回にわたって行われてきたこのオーナー制度も、今回の稲刈りで今期の作業は終了となります。オーナーの皆さんは、稲の生育状況を確認しながら収穫を楽しんでいました。その後は、棚田の写真コンテストの審査会、餅つき、昼食会が開催され、矢板の秋を満喫しているようでした。



10/4 (日) レンゲツツジを守ろう

八方ヶ原の大間々には、市の花レンゲツツジが約20万株自生し、例年多くの観光客が訪れています。このツツジの名所の花付きを少しでもよくしようと、ボランティア60人がノコギリや剪定バサミを持ち寄り、枯れ枝の除去作業が行われました。枯れた枝を除去することで、見栄えが良くなるほか、生育を助けることにつながります。作業が行われた後には、山の駅からはらで、山ゆりの会の皆さんにより、矢板の旬の食材を8種類使った「八宝鍋」が振る舞われました。



10/4 (日) 歌う海賊団と元気を!

文化会館大ホールで、「歌う海賊団ッ!」による「歌う海賊団ッ!と一緒に元気をまわそう♪」と題した子育て応援公演が開催されました。この公演は、歌やダンスをふんだんに取り入れた楽しいステージを通じて、参加した皆さんに元気を与え、日々の生活を豊かなものにしてもらおうという目的で開催されたものです。この日は、約500人の親子の参加者が、一緒に歌い踊りながらステージを楽しみ、最後には、海賊団艦長と市長が共に子育て推進を応援する契約書を交わしました。



10/4 (日) 震災を忘れないために

文化会館小ホールで、安沢ほほえみ会による「東北復興応援 in やいた」が開催されました。この催しは、未だ終わっていない復興への意識を再確認することを目的として行われているものです。第1部では、「震災と復興のなかで」と題し、宮城県気仙沼市大島児童館長の菊田榮四郎氏による講話会が行われ、「復興には、人と人とのきずながとても大切だ」とのお話がありました。第2部では、ベンチャーズのコピーバンドの「THE Red Rabbits」によるコンサートを楽しみました。



10/10 (土) やいたに伝わる昔の話

郷土資料館で、企画展「やいたの昔の話～ふるさと再発見～」が行われました。矢板市の各地域には、多くの民話が残されており、この度、文化財愛護協会が内容を再検討し、「やいたの昔の話」を発刊しました。企画展では、やいた語りべの会の皆さんにより、その民話が語られたほか、民話にまつわる地図や調度品などが展示されました。また、終戦70年を迎え「矢板の戦争談」というテーマでの展示も行われるなど、来館者した方々は、矢板の歴史を再確認されていました。



10/13 (火) 四百年式年大祭に奉納

市内の刀鍛冶、加藤慎平さんが製作した刀が、日光東照宮に奉納されました。この刀は、日光東照宮の四百年式年大祭に合わせて、刀を奉納しようと実行委員会の皆さんが、加藤さんに製作を依頼したものです。稲葉宮司からは、「市民の皆さんの想いが詰まった刀を大切に展示させていただく」との話がありました。奉納前には、市役所の市民室で展示され10月7日から9日までの3日間で728の方が見学に訪れ、伝統文化の巧みな技に目を輝かせていました。



10/17 (日) 秋の夜空に1万発

道の駅周辺で、「つつじの郷やいた花火大会2015」が開催されました。この花火大会は、市民の有志らにより「市民力で矢板市を盛り上げよう」と始まったもので、今年で9回目を迎えます。約1万発の花火を見に、市内外から約3万人の方が集まりました。刈り終わった田で打ち上げられる花火は、「さえぎるものが少ないため市内各地で見ることができた」との声が多く聞かれました。花火大会の翌日には、400人を越えるボランティアが集まり、会場周辺の清掃が行われました。

